

「苦境に勝利する秘訣」
創世記 42章～50章（聖書朗読は 45:1-15）
～ヨセフの生涯（2）～

はじめに

旧約聖書からその中心人物を取り上げて学んで来ました。アブラハム、イサク、ヤコブを学び、前回に続き今回も、ヤコブの子ヨセフの生涯を学びましょう。ヨセフの生涯は創世記 37章から 50章まで 13章の長きにわたって語られています。今回はその後半、41章からを見ることにします。

私たちは、予期しない苦難に会うことがあります。ヨセフにもそれが見られます。しかし、その苦難の中で、ヨセフは主に祝福されていきます。ヨセフは苦難に完全に勝利しました。それは、主がヨセフとともにおられたからと、彼が信仰によって苦難の意味を理解したからです。

中心聖句「今、私を売ったことで心を痛めたり、怒ったりしてはなりません。神はいのちを救うために、あなた方より先に、私を遣わしてくださいました」（45:5）。

1 ヨセフの生涯のあらまし。

彼は父が最初に愛したラケルの子で、特別に父に愛されましたが、その兄たちには憎まれました。兄たちは、ヨセフが兄たちの支配者になり、父母までもがヨセフを拝むようになるというヨセフの夢を聞いて怒り、益々ヨセフを憎むようになりました。やがてヨセフは兄たちの策略に遭い、エジプトに奴隷として売られてしまいます。

ヨセフを買い取ったのは、エジプト王パロの侍従長ポティパルでした。彼は主がヨセフとともにおられて、主がヨセフのすることすべてを成功させてくださるのを見ました。そして、家と全財産を管理させました。その結果、ポティパルの家は祝福されました。

ところが、主人の妻はヨセフが体格もよく、美男子なので、彼を誘惑しました。ヨセフは「どうして、そのような悪事をして、私は神に罪を犯すことができますでしょうか」と言ってきっぱり断ります（9）。しかし、彼女はさらに誘惑を続け、断られると今度は、ヨセフが自分を誘惑したと夫に言いつけ、怒ったポティパルはヨセフを牢に入れてしまいます。

牢獄でも主はヨセフとともにおられ、牢獄長は、ヨセフにすべての囚人を委ねました。主がともにおられ、ここでもヨセフのなすことすべてを成功させてくださいます。

獄中では、囚人となっていた献酌官と料理官が夢を見ます。ヨセフは、その夢を解き、献酌官は赦されます。ヨセフは献酌官に「釈放されたら、私のことを王に話してください」と頼むのですが、献酌官はそのことをすっかり忘れ、ヨセフはなお2年間牢につながれたまま過ごすこととなります。

さて、ここからが、今回の話になるのですが、あるとき、エジプトの王が夢を見ました。が、それを解き明かす者がいませんでした。その時、以前ヨセフに夢を解いてもらった献酌官がヨセフの事を思い出し、ヨセフを王に推

薦しました。ヨセフは王の夢を解きました。王の夢は、7年間の豊作の後に7年間の凶作が来るというものでした。ヨセフは、だから豊作の期間に凶作の期間のための蓄えをするようにと王に勧めました。それを聞いた王は「神の霊が宿っているこのような人を、ほかに見つけることができようか」（41:38）と言って、ヨセフにエジプト全土の支配を任せることになったのです。

2 ヨセフと兄弟たちとの劇的な出会い（42章）。

ヨセフが言った通りに7年間の飢饉が始まりました。飢饉が世界中に及ぶと、ヨセフの父ヤコブは息子たちに、エジプトに行き、穀物を買ってくるように命じました。ヤコブはベニヤミンだけは自分のもとに残しました。兄弟たちは、エジプトでヨセフの前に出たとき、ヨセフとは分からず、顔を地に着けて彼を伏し拝みました。ヨセフの夢が実現した瞬間でした。ヨセフは彼らを厳しく扱い、帰ってよいが、一人をここに残し、次に来るときはベニヤミンを連れてくるように命令しました。兄弟たちは、「ああ、われわれは弟のことで罰をうけているのだなあ。あれがわれわれにあわれみを請うたとき、彼の心の苦しみを見ながら、われわれは聞き入れなかった。それでわれわれはこんな苦しみに会っているのだ」と言って、自分たちのしたことを悔やみました（42:21）。

買って来た食料が尽きると、ヤコブは再び息子たちをエジプトに送りました。今度は、ヨセフの命令通りベニヤミンも一緒に。ヨセフは彼らの中に弟のベニヤミンがいるのを見ると、奥の部屋に入り、懐かしさのあまり泣きました。ヨセフは彼らを自分の家に招きました。兄弟は、年の順に席が決めてあったのに驚きました。帰りがけに、ベニアミンの袋からヨセフの杯が見つかりました。驚いた兄弟たちはヨセフの所に戻り、ユダが、「神がしもべどもの咎をあばかれたのです。ベニヤミンをおいて行けば、老いた父は死んでしまいます。私を身代わりにしてください」とヨセフに懇願します（44:33）。

3. 苦境に勝利したヨセフ（45章）。

こらえきれなくなったヨセフは、他の者を外に出し、声を上げて泣きました。そして「私はヨセフです。父はお元気ですか」と言って自分を明かしました。兄弟たちは、驚きのあまり声も出ません。するとヨセフはこう言いました。「今、私をここに売ったことで心を痛めたり、怒ったりしてはなりません。神はいのちを救うために、あなたがたより先に、私を遣わしてくださったのです。・・・神は私をあなたがたより先にお遣わしになりました。・・・大いなる救いによってあなたがたを生きながらえさせるためだったので。だから、今、私をここに遣わしたのは、あなたがたではなく、実に、神なのです」（45:5-8）。

恨み言を言うこともなく、彼らをののしることもせず、ヨセフはなぜこのようなことを言うことが出来たのでしょうか。その秘訣は、彼のことはの中にあります。それは「神への絶対的な信仰」です。ヨセフの生涯を貫いていたのは、主がいつも彼とともにおられたこと、そしてヨセフがいつも主を見上げて、主を信じ続けてきたことです。ヨセフは、すべてのことの中に、主

の導きを見、それを確信したのです。ですから、エジプトに来たのも、兄弟たちのせいではなく、権力者になったのも自分の力ではなく神の導きであることを確信出来たのです。

例 主イエス・キリスト

主イエス・キリストのご生涯は、人々から疑われ、ののしられることの多いものでした。そして最後には、十字架で殺されることになります。しかし、十字架でイエス様は、「父よ。彼らをお赦してください。彼らは何を しているのか自分でわからないのです」と父である神に祈り、最後に、「父よわが霊を御手にゆだねます」と、すべてを神の御手にゆだねて息を引き取られました（ルカ 23:34,46）。イエス様はなぜ、このように言うことが出来たのでしょうか。それは、ご自分が神の御子であり、何のためにこの世に来られたかをはっきり知っておられたからです。イエス様はこう語っておられます。「人の子が来たのも、仕えられるためではなく、かえって仕えるためであり、また、多くの人のための贖いの代価として、自分のいのちを与えるためなのです」（マル 10:45）。

使徒パウロはこう語っています。「キリストは神の御姿である方なのに、神のあり方を捨てられないとは考えず、ご自分を無にして、仕える者の姿をとり、人間と同じようになられました。人としての性質をもって現れ、自分を卑しくし、死にまで従い、実に十字架の死にまでも従われました。それゆえ神は、この方を高く上げて、すべての名にまさる名をお与えになりました」（ピロ 2:6-8）。

イエス様は、神に信頼し、全く神に従われたからこそ、人々を赦し、神からすべての名にまさる名を与えられたのです。

勧め

さて私たちは、どうしたら苦境に勝利し、ヨセフのように、苦しみに会っても、裏切られても、人を憎まず、赦すことの出来る人になれるのでしょうか。それは、自分の力では出来るようなものではありません。ヨセフのように、神様を見上げ神様に信頼するほかはないのです。神様に信頼するならばあなたにも出来るのです。

使徒パウロは、こう語っています。「神を愛する人々、すなわち、神のご計画に従って召された人々のためには、神がすべてのことを働かせて益としてくださることを、私たちは知っています」（コリ 8:28）。神様は、どんな時にも私たちを導き、すべてのことを私たちの益としてくださるのです。

苦境に陥り、どうした良いか分からなくなったら、ヨセフを思い出しましょう。そして、何よりも、イエス・キリストを思い、イエス・キリストに信頼しましょう。あなたは、苦境にあたって、ただそれを我慢するのではなく、また、人に復讐するのでもなく、苦難に勝利する人になれるのです。

救い主として受け入れていない人への勧め。

あなたは、今日までイエス様を知らなかったかもしれませんが。しかし、イエス様はあなたを知っておられます。今日、今、イエス様のもとに帰っていらっしゃい。イエス様は、それを望んでおられます。

「見よ。わたしは、戸の外に立ってたたく。だれでも、わたしの声を聞いて戸を開けるなら、わたしは、彼のところに入って、彼とともに食事をし、彼もわたしとともに食事をする（黙示録 3:20）」

「主イエスを信じなさい。そうすれば、あなたもあなたの家族も救われます」（使徒の働き 16:31）」

「神は、実に、そのひとり子をお与えになったほどに、世を愛された。それは御子を信じる者が、ひとりとして滅びることなく、永遠のいのちを持つためである」（ヨハネ 3:16）」

祈り

父なる神様。あなたの御子イエス・キリストを感謝します。

私は、あなたに罪を犯して来ました。地獄に投げ込まれても当然な人間です。

しかし、イエス様は私の罪のために十字架にかかり、私のために死んでくださいました。

あなたは、私のすべての罪を赦してくださると言われました。感謝します。

私は、いま、イエス・キリストを私の救い主、私の神として信じ、受け入れます。

あなたは、私をあなたの子として受け入れてくださることを感謝します。

今日からあなたに従っていきます。どうぞ、弱い私を導いてください。

イエス・キリストの御名によってお祈りします。 アーメン。